

研究発表会

当館は、各学芸員が日頃より取り組んでいる研究課題を発表したり、計画中あるいは準備中の展覧会について報告や検討する場として、準備室時代より月に一度の割合で研究会を開催している。現在では、従来のテーマに加え、トピックとして日常業務や国内外の出張、さらに開催済みの展覧会への反省などの課題も織り込まれている。

本年度の内容は、以下のとおり。それぞれ40分程度の発表と司会者を立て、発表者と館長および学芸員が質疑応答する形式で実施した。

- | | | |
|-----|--|-------|
| 5月 | 「宮芳平《椿》と初期作品について - 大正期の点描画についての一考察」 | 堀切正人 |
| 6月 | 「自主企画展としての現代美術展の今後について」 | 李 美那 |
| 8月 | 「描かれた東海道展について」 | 飯田 真 |
| | 「総合的な学習について」 | 柏原幸泰 |
| 9月 | 「ロダンとオリエントを巡る再考察」 | 南 美幸 |
| 10月 | 「ドメニキーノとG.Bアグッキ - 《エルミニアと羊飼ひ》に関する一考察 (その2) - 」 | 小針由紀隆 |
| 11月 | 「吉田博の水彩画について - 不同舎時代を中心に - 」 | 泰井 良 |
| 12月 | 「富士山図の歴史的展開 - 古代から幕末まで - 」 | 山下善也 |
| 1月 | 「寄託作品《白象群獣図》について - 伊藤若冲に関連したモザイク風作品についての再考 - 」 | 森 充代 |
| 2月 | 「はみだすものについて - 浮世絵にみる西洋版画について - 」 | 新田建史 |

各種資料整理

作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等が42台のキャビネットに収められている。

- (1) 作家人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館蔵品資料（館蔵品番号順）
- (3) 出品作品資料（各企画展ごと）
- (4) 館蔵品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

館蔵品などの写真・スライド作成整理

(1) 館蔵品

新収蔵品については、年度内にまとめて専門家による写真撮影を行なっている。主に4×5インチのカラーポジを写真原板として受入番号順にホルダーに入れ、合わせて35mmスライドも撮影、それぞれキャビネットに整理収納している。

なお、これまでの原板には撮影後10年が経過し、色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。また、館蔵品の35mmスライドも収蔵品展示の機会を適宜とらえて遡及撮影している。

(2) その他

館蔵品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

館蔵品写真のフォトCD化

館蔵品の画像を、コンピュータで利用できるように、平成7年度から館蔵品写真のフォトCD化を順次進めている。フォトCDに収められた館蔵品画像は、インターネットのホーム・ページや研究会などで実用が進んでいる。

美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料のうち、新聞切り抜きについては、ボランティアの協力を得て、その日常活動のなかで行なわれている。さらに、その新聞切り抜きの整理や、個展案内葉書などの整理には、ボランティア有志による、資料整理グループ「グループD」が当たっており、着実に整理が進んでいる。

展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各展覧会ごとに整理が行なわれ、キャビネットに収納されている。

コンピュータによる各種データ管理

館蔵品データや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータ・ベースソフト「桐」を使用し、以前より進められている。データの遡及入力作業には、ボランティア有志によりコンピュータ入力チーム（「桐の会」）があたり、新たに発生するデータについては、日常業務の延長上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

(1) 収蔵品

収蔵品の基本データと履歴データが入力されている。基本データについては、データの見直し作業や表記の統一などを随時実施。

また、平成11年度に実施した展覧会出品歴、掲載文献歴など履歴データの入力検討をもとに、今年度から、履歴データの入力を開始した。5つの履歴データ（伝来・修復歴・展覧会出品歴・収蔵品展展示歴・文献掲載歴）について、それぞれデータファイルを作成。順次入力および遡及入力を進め、伝来・修復歴・展覧会出品歴・文献掲載歴については遡及入力をほぼ終了、収蔵品展展示歴の遡及入力が次年度の作業として残った。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等、諸業務と連動させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植していく道筋を作った。なお、5つの履歴データファイルは、基本データのファイルと館蔵品受入番号をキーにしてリンクしている。

(2) 図書

図書は基本的な手作業によって収集・受入・整理作業が行なわれているが、平成4年度からはそれと並行し、順次データのコンピュータ化を進めている。遡及入力については今年度終了の見込みだったが、思いのほか手間取り次年度まで持ち越された。現在、遡及入力を続けている。

なお新規受入図書については、前年度以来、図書担当職員によるデジタル入力での受入作業を進め、図書カードや図書原簿なども連動しプリントアウト、順調に推移している。

遡及入力終了後の課題として、図書データ公開計画を具体的に検討していく必要がある。